

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、ほぼ、月1回の会議時に、職員皆で唱和している	「利用者の思いを大切に・・・」他、3項目からなる基本理念を玄関とホールの目につきやすい所に掲示し、ホームの介護の取組み姿勢が解るようになっている。合わせて2階のスタッフルームにも掲示し、ユニット会議の席上、唱和とともに振り返りの時を持ち支援に繋げている。職員の中に理念にそぐわない言動等が仮にあった場合は管理者が個人的に指導するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいたり、畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいたことがある。ご近所にAEDの貸し出しもしている。	開設以来、当ホームの顧問と地域との太いパイプがあり、法人として区費を納め、地域に密着し開かれたホームとして活動している。年4回開かれる地域の高齢者の集い「鉢伏会」には特別会費を納め、9名の利用者全員が毎回参加し地域の方々と楽しいひと時を過ごし、食事や作品制作、保育園児とのふれあいを楽しんでいる。また、地区の文化祭には「きんもくせいコーナー」を設けていただき作品展示や見学に出掛けている。ボランティアの来訪も「歌」「ベリーダンス」等、職員も関わっているボランティアの来訪が定期的により楽しい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っている。運営会議の勉強会に、ご近所の方たちもお誘いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、生かしている。また、身体的拘束適正化検討委員会の委員も兼ねて頂いている。	利用者代表、家族代表、区長、区分館長、民生児童委員、地域消防団員、地域代表住民、市地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、身体的拘束適正化検討委員会を兼ね開催している。サービス内容と運営について出席者より意見を頂き、地域との連携や運営の向上に繋げている。更に、毎回テーマを設け講師を招き、勉強会を開くことで出席者にとっても有意義な会議としている。また、運営推進会議議事録も職員に開示し、支援の質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携を深めている。	事故報告等必要事項については管理者が市に出向き報告、連絡、相談を行い、良好な関係を保っている。年1回開かれる市主催の介護施設の会議には管理者が出席し他施設との交流と意見交換を行っている。市の介護相談員の来訪が3ヶ月に1回あり、利用者との交流の時間を持ち、市より文書で報告があり支援に役立っている。介護認定更新の調査は調査員がホームに来訪し行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ、月1回行われているユニット会議では、身体的拘束適正化委員会も兼ね、研修も年2回行っている。日中の玄関の施設は、ほとんど行っていない。	拘束を必要とする利用者はなく、拘束ゼロのケアに取り組んでいる。毎日外を散歩することでストレスも溜まらず、外出傾向の強い方も玄関は開錠している。夜間、ベットからの転落防止のため家族と相談し、センサーマット使用の利用者がいるが、年2回行う身体拘束研修会と毎月のユニット会議内で行う身体拘束適正化委員会で振り返り、拘束ゼロに向けて意識を高め取り組んでいる。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。身体拘束の研修の際にも勉強はしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほぼスタッフ全員の会議で勉強を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	全員の利用者が言葉で意思表示の出来る状況で、職員はしっかり寄り添い、意見、要望を受け止め支援に取り組んでいる。家族の来訪は週1・2回から月1回位の方が多く来訪の際には利用者の状況についてきめ細かく話している。合わせてメールでも報告・連絡を行い家族との連携を取っている。利用者の誕生日や母の日・父の日にはプレゼントを持って来訪される家族が多くお茶を飲みながら利用者や職員との会話を楽しませている。また、2ヶ月に1回、ホーム便り、「きんもくせいだより」を発行し、利用者の様子やホームでの出来事をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほぼ月1回会議を開き、意見を聞くようにしている。	月1回カンファレンスを兼ねユニット会議を開催し、事故報告や利用者個々のケアについて、意見交換、身体拘束適正化委員会等を行い支援の向上に繋げている。職員は年間の自己目標を立て、それに対して自己評価を行い、年2回管理者による個人面談を行い賞与への評価に繋げている。職員同士の関係性も良好で、年2回懇親会も行い親交を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰを取得する為、キャリアパス要件Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの要件を満たし、職場環境(資格取得支援・研修受講・介護機器導入・ミーティング・非正規から正規職員へ)の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けたり、内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、自立支援を第一に考えるように話している。利用者にて得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、誕生会に出席していただいたり、基本、受診は、ご家族をお願いしている。ご利用者様の不安・混乱等大きい場合は、面会に来ていただいたり、電話をかけてお話しして頂いたりしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	知人や元同僚の来訪があり、面会ノートにサインを頂き家族にお知らせしている。年末には家族に手作り年賀状をお出し喜ばれている。ホームの隣には馴染みの美容院があり、話がてら出掛けるのも楽しみの一つとなっている。利用者同士仲が良く居室を歩き来ており、家族と月1～2回、馴染みの店に食事に出掛ける利用者もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようにしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用者の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励したこともあった。お家で採れた林檎など差し入れて貰った事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、日々、お話して会話していく中からの気づき、アセスメントを通じ本人の思いの把握に努めている。	全利用者が言葉で希望を表現できる状況であり、職員は優しく寄り添い、話を聞き、意向に沿った支援に繋げている。洋服選び等は提案をし、好みのおやつ等も把握し、希望に沿えるよう取り組んでいる。入浴時等の利用者と職員1対1での会話を大切に、その内容や日々の状況を業務日誌や連絡ノートに記録し、職員は出勤時に確認し業務に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方を把握し、新しいことの挑戦でなく、日々の中から、馴染みの暮らし方を継続する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録、支援内容確認書から一人一人の状態を把握している。その人に合った対応をするように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、管理者、介護員の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。新しい計画より継続できる計画を考えるようにしている。	職員は1~2名の利用者を担当し日々の状況を細かく把握し業務日誌としてまとめ、カンファレンスで話し合い、プラン作成時には家族の希望もお聞きしている。基本的に6ヶ月に1回のプラン見直しを行い、状態に変化が見られる時には随時見直し、介護認定変更申請も合わせて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々体調を観察し、支援の結果を介護記録に記録、支援の見直し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地区のミニデイサービスに参加し、市民が活用している大浴場(外湯)に入浴した利用者もいた。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。又、地区の文化祭にも出品し、施設の存在をピーアールしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、かかりつけ医、協力医に受診、往診をうけている。現在3人の医師が往診している。	ホーム協力医による月1回の往診対応の方が半数強、入居前からのかかりつけ医受診対応の方と月1回の往診対応の方が若干名ずつという状況である。ホームとして契約の非常勤看護師がおり、週1回来訪し健康管理や医師との連携を図っている。歯科は状況に合わせて協力歯科の往診で対応している。その他、専門医の受診については家族にお願いしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を提出し、看取りを始めた。今まで、2名の看取りを行い、お亡くなりになったご利用者様、ご家族様から、色々な事を教わった。主治医、地域の訪問看護ステーション、ホームのナース、介護スタッフと連携を取り、チームで支援した。	重度化した場合における看取り指針があり利用契約時に説明している。日々の暮らしを過ごす中で終末期を迎えた時、改めて医師を交え終末期ケアについて説明し同意を頂き、医師の指示の下、家族と訪問看護師で契約を結んでいただき看取り支援に取り組んでいる。開設以来2名の利用者を看取り、医療行為が必要となるぎりぎりまで支援を続けた利用者も4名いる。看取り研修を踏まえ内部での話し合いを重ね、家族ともきめ細かく話し、全職員で一生涯看取りに取り組み家族からも感謝されたという。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前、夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。毎月1日に避難訓練を行っている。	ホームのある地域が市の土砂災害避難地域に指定されており、毎月1回、全利用者参加で、防災頭巾をかぶりベランダ外まで移動しての避難訓練を実施している。合わせて職員間で「消火」「通報」「避難」の担当をそれぞれ決め、防災意識を高め取り組んでいる。また、年1回は消防署参加の防災訓練も実施している。備蓄については「水」「米」「味噌」が三分準備されている。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の人格の尊重とプライバシーの確保を心掛けている。特にプライドの高い方や、男性利用者への言葉かけには気を配っている。	日々利用者へ接する中で優しい声掛けをするよう気配りすると共に、「親しき仲にも礼儀あり」で馴れ合いにならないよう気を付け、呼び方も「ちゃん」付けにならないよう支援に取り組んでいる。入室の際には声掛けとノックを忘れずにトイレ誘導の声掛けにも特に気を使い誘導している。また、利用者への接し方で気付いた時にはお互いに注意し合い、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。表出のない方は、選択肢を提示して自己決定を促している。利用者の相談など、気軽に話せるよう心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定番のリズムに沿って支援してしまっている面はあるが、希望がある場合は、無理強いせず、希望に耳を傾ける様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整容が難しい方の支援を怠らないよう心掛けている。「似合いますね。素敵ですね。」など利用者が喜んで笑顔になれるよう言葉をかけ、支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者とスタッフが、一緒に楽しく食事している。一人一人の食事量や好き嫌いに配慮している。咳込み、飲み込みなども注意している。	全利用者が常食を自力摂取できる状況で、職員も利用者の間に入り、会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。献立は朝食と夕食は配食会社の食材を用い職員が調理をし、昼食については仕出し弁当屋の副食にご飯と汁物を職員が調理しお出ししている。お手伝いは盛り付けから後片付けまで、利用者一人ひとりの力量に合わせ、職員と共に笑い声も交え楽しく行っている。また、季節によって年末年始等にはお寿司やおせち等、特別メニューで食事を楽しんでいる。更に、男性利用者の中には毎日晩酌を楽しまれる方もおり、ホームでの生活を自由に過ごしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いにならない程度に、食べ残しの摂取を促したり、水分摂取の促しをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間の義歯の洗浄や介助が必要な方は、口腔ケアは行っているが、ご自分で歯を磨かれている方は、声かけにとどまっている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけて支援している。家族の金銭的な負担を減らすためリハビリパンツの代わりに洗い替え出来るパンツを使っている人もいる。夜間は使用パットの計測もし、無駄のないパット使用に心掛けている。	排泄については自立されている方は若干名で、多くの利用者が一部介助という状況である。排泄表を用い個々のパターンを把握し、それに合わせ2～3時間おきに声掛けを行いトイレ誘導を行っている。また、消耗品の削減にも積極的に取り組み、洗い替えの出来るパンツを使用することで家族の負担低減に取り組んでいる。また、リハビリ中の利用者がおられるが排泄の自立支援にも積極的に取り組み、リハビリに合わせトイレに「掴まり手擦り棒」を設置し排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と散歩、水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。トイレ時お腹のマッサージを声掛けしたり、こちらで行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その中で時間帯等は希望を聞いている。入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。	一部入浴介助の方が大半で、リハビリ中の利用者がリフト浴という状況である。週2回入浴を行い、職員との会話を楽しみながらの入浴に心掛けている。拒否される方もいるが、家族の協力も頂きながら声掛けに工夫を対応している。年1回、地域の高齢者の集い「鉢伏会」で市の「ふれあいの湯」に入浴に出掛けている。また、家族と1泊2日で温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。リネン交換も定期的に行い、布団干しも行っている。眠れない利用者には、飲み物等出し、ゆっくり話を聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう3回チェックし、服薬時は、飲み込むまで確認している。薬の変更時は、特に、確認を怠らない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵、ボール投げなど)や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。干し柿、ほうば巻、柏餅作りも行った。縫い物や書写、俳句作り等得意な事も行える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、ドライブなど行っている。地域の行事なども、参加を心がけている。ブドウ狩りの帰りに道の駅に寄って外食もした。	外出時、車イス使用の方が若干名おり、その他の方は、手引き、杖使用、シルバーカー使用という状況である。歩くことに力を入れたケアに取り組んでおり、天気の良い日には近くのバラ園まで毎日30分～40分の時間を掛けゆっくり散歩をし、楽しく歩くことで歩行機能の低下予防に取り組んでいる。合わせて、ペランダに出てお茶を楽しんだり外気浴を兼ね洗濯物を干している。更に、季節に合わせてドライブを兼ねた「花見」「あじさい見物」「ブドウ狩り」等にも外食を兼ね出掛けている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。買い物支援は少ないが出かけた時は、希望の物を購入している。その時は、ご本人にお金を払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。ただし、家族の迷惑にならない時間帯にしている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	掃除が行き届き綺麗に整理整頓され、広々とし、また、明るいリビングには季節の飾りつけがされ、居ながらにして季節を感じる事ができる。そのような中、仲良く笑顔で寛ぐ利用者の姿が見られ、微笑ましさを感じられる。壁には「鉢伏会」で制作し文化祭に出品した利用者の壁飾りを初めとした作品、日頃の様子を写した写真などが数多く飾られ、ホームの活動の様子が窺える。また、漢字一文字で表した利用者一人ひとりの年始の「夢」の文字が飾られ、アットホームな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意してくださり、写真や思い出のものなど持ち込まれている。利用者に危険のないような配置を心掛けている。	各居室とも掃除が行き届き清潔感が漂い、衣服はハンガーラックに綺麗に整理されている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、いす、テーブル等が持ち込まれ、壁には家族の写真、職員から送られたメッセージ色紙等が貼られている。職員と共に生活の場を作り、日々、思い思い、自由な生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレは大きな字で表示している。ポスター等も貼って注意したほうが良い事などお知らせしている。		